＝私たちの活動　４つの柱＝
＊制度化と指導員の身分保障
＊専門性と仕事の確立
＊父母と共に学童保育運動の発展
＊全国の指導員との団結と連帯

建交労全国学童保育部会

ニュース学童保育

2016．１１．１．
ＮＯ．６
全日本建設交運一般労働組合
全国学童保育部会　発行
編集：事務局

静岡、アンケートからの声を把握

昇給もボーナスもない

切実な声が寄せられる

静岡部会では働くみんなの要求アンケートを県内644クラブの内140クラブ（組合員のいる自治体を中心に1クラブに3枚アンケート同封）にアンケートを送りました。現在86人から返送がありました。

その中で次のようなご意見がありました。

●父母会運営で、労働条件に関する事をなかなか言えない。育休・産休制度などしっかりしていないので心配。子どもができたら退職せざるを得ない。

●利用する側には優遇されていくが、支援員の待遇が改善されない。年々責任は重くなっていく。このままでは質の良い支援員の確保は難しい。

●児童の安心安全を預かる責任の重さのある仕事なのだが、全員パートというのは納得いかないし昇給もなければボーナスもない。しっかり働きたい人は正社員の所へ行ってしまう。

●正職員といわれ責任は年々増えるが、実態は6時間勤務のパート職。年々、社会保険料が値上がり、勤務初めの頃の方が手取り額が多く、今では10万円を切っている。1年更新なので退職金もない。

●経験年数が長くても、新人と時給が同じでは仕事へのモチベーションが下がるどころか、何を目標にして仕事をすればよいのかわからない。

今回は郵送したクラブにアンケートにご協力くださいと電話かけをしています。

反応も様々です。

「運営委員会で話し合いアンケートには取り組まないことに決めた。」

「社協にアンケートをわたした。」

「何をしても変わらない。あきらめている」などの声もありました。

これまで、アンケートを集計しても、その結果を知らせるという事をしてきませんでしたが、今回からアンケートを郵送したクラブには結果を送ることに決めました。

そして、なんといっても一番の課題は拡大です。処遇改善事業を予算化し、組織拡大につなげていった愛知の報告は、静岡で果たしてできるだろうかと思い悩むところですが、自治体に予算要求していくために処遇改善事業の学習に取り組んでいくことを決めました。

（静岡　永塚信子）

全国学童保育研究集会 in愛知

10月29～30日、愛知県体育館などで全国学童保育研究集会が開催され、全体で約4700人が参加しました。

会場の愛知県体育館前に集まった部会の仲間。夕方はとても寒かったよ～。

建交労は初日終了後、会場前で集会を行い、立嶋部会長より「お互いたくさん学習する2日間にしましょう。来週の中央行動でも奮闘しましょう」と参加者を激励しました。

集会に間に合わなかったけど、町田分会の元気なみなさん。

また、愛知を中心に、建交労押し出し宣伝行動も行いました。